

フライバーグ病

● 症状

● フライバーグ病とは —

フライバーグ病は中足骨骨頭(足趾の付け根の骨)に発症する骨の壊死(血液の流れが悪くなった状態)で、第2ケラー病と呼ばれることもあります。骨端症のひとつで10歳代を中心に発症し、女性に多いと言われています。

● 症状

足趾の付け根[中足趾節関節(MTP関節)]に痛みがでます。足底に胼胝を形成していることもあります。最も多いのが第2中足骨、ついで第3中足骨、第4中足骨で、稀に第5中足骨に発症します。進行すると関節症(軟骨がすり減った状態)になります。

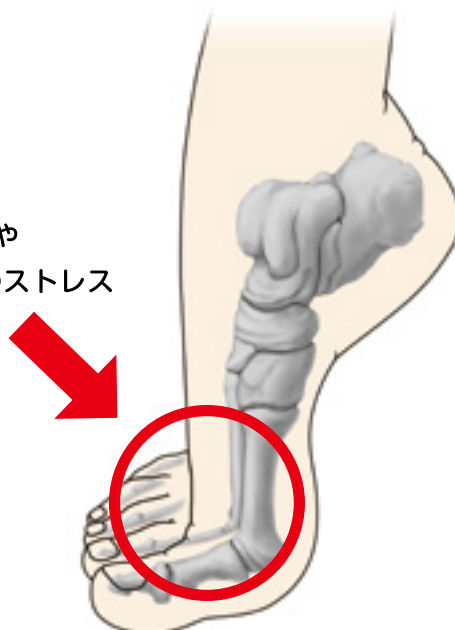


中足骨頭の骨頭壊死

● 原因・病態

スポーツやケガをきっかけに痛みが出る 경우가多く、足趾の付け根に加わる繰り返す衝撃や徐々に加わる負荷が原因の一つと考えられています。その他、関節の柔らかさや、ハイヒールの使用による足趾の付け根へのストレスなどが原因で中足骨骨頭の血液の流れが悪くなると考えられます。

中足骨頭への衝撃や
MTP関節背側へのストレス



診断

● 足部単純X線

単純X線正面、斜位像にて骨頭の変形を確認できます。

● CT検査

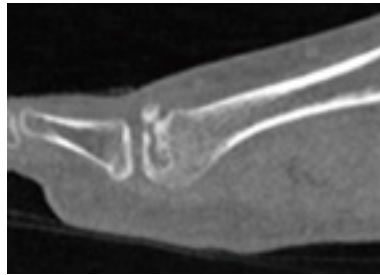
CTは骨頭壊死の形態や範囲を確認できます。

● MRI検査

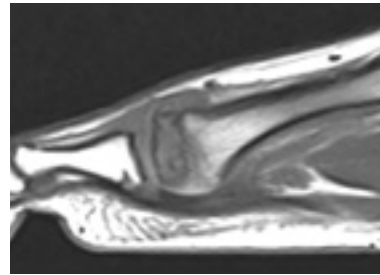
痛みが出てから3～6週間は単純X線で明らかな異常を確認できないこともあり、その際はMRIが診断に有用です。



足部単純X線



CT



MRI

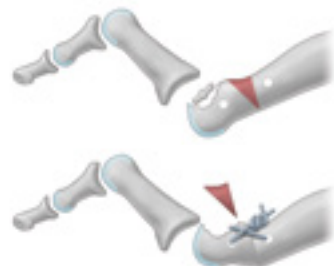
治療

保存療法

保存療法には安静(運動の制限)や免荷(足に体重をかけない状態)、痛み止めの内服、ステロイドの局所注射、足底挿板(インソール)の使用、ソールの硬い舟底型の靴の使用、ギプス固定、などが行われます。免荷やギプス固定は最低6週間は行う必要があります。

手術療法

保存療法で症状の軽快しないものや、変形の進行したものが適応となります。手術には関節温存手術と人工関節や切除関節形成術などの関節再建術(関節を作る)があります。発育期では関節温存手術が選択肢となります。関節温存手術には、デブリドマン(遊離体の摘出および骨棘の切除、ドリリング)、中足骨骨頭または頸部の背屈骨切り術、骨軟骨柱移植、中足骨短縮骨切り術、などがあります。



頸部の背屈骨切り術



骨軟骨柱移植

適切な診断および治療法を選択することにより、足部の遺残変形や慢性的な疼痛を回避することができます。